

<特集「情報標示の諸要素」>

## イタリア語 Markers of information structure in Italian

土肥 篤  
Atsushi Dohi

東京外国語大学大学院総合国際学研究科  
Doctoral Course, Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

**要旨:** 本稿は特集「情報標示の諸要素」(『語学研究所論集』第22号, 2017, 東京外国語大学)に寄与する。本稿の目的は25個のアンケート項目に対するイタリア語データを与えることである。

**Abstract:** This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘markers of informational structure’ (*Journal of the Institute of Language Research* 22, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Italian data for the question of 25 phrases.

**キーワード:** 主語卓越型言語、取り立て表現、不定表現、情報の縄張り

**Keywords:** subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

特集「情報標示の諸要素」のアンケートについて、そのねらいに鑑み、以下に回答をまとめ、さらにそれぞれについて簡単な説明を試みる。また項目によっては、筆者の判断で例文を追加した。

回答および例文の追加に際しては、筆者によるイタリア語への直訳(追加例文の場合には、作例)を母語話者に訂正、ないし他の表現の可能性を指摘してもらった<sup>1</sup>。

例文については、グロスは最低限のみ付している。また、調査例文とニュアンスが異なる等の理由で必要であると思われる場合のみ、グロスの下に日本語での直訳を示した<sup>2</sup>。

### 1. 主題卓越型類型論の軸項について

(1) この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。

【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

a. Questo campo dà un raccolto abbondante. Quindi verrà venduto  
この 土地:M;SG 与える ART 収穫 豊富な だから 売られる:3SG;M  
ad un prezzo alto.  
で ART 値段 高い



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1</sup> 主に日本語学習者であるイタリア語母語話者2名の協力を得た。いずれも十分な日本語力を備えている。しかしながら、本稿および例文に関する責任は当然、全て筆者にある。

また、インフォーマントの出身地は北部イタリアと南部イタリア両方が含まれてはいるが、地域差については十分に考慮できていないことをことわっておく。

<sup>2</sup> グロスに用いた略語は以下の通りである。以下、使用順。M=男性、SG=単数、ART=冠詞、3=三人称、PL=複数、F=女性、1=1人称、NEG=否定、IMP=命令法、AUX=助動詞、PRS=現在、IND=直説法。

イタリア語においては、(1a)のように *Questo campo* 「この土地」を（主題でもある）主語に置き、「この土地は豊富な収穫を与える」のように表現するのが最も自然であろう。続く文は同じく「この土地」を主語とした受動文である<sup>3</sup>。

また、(1a)に比べれば多少不自然にはなるが、次のような表現も可能である。

b. *In questo campo crescono bene le verdure. Quindi verrà venduto ad un prezzo alto.*  
で この 土地:M;SG 育つ;3PL よく ART 野菜:F;PL だから 売られる:3SG;M で  
ART 値段 高い

「この土地では野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。」

(1b)では、動詞 *crescere* 「育つ」（ここでは三人称複数形 *crescono* に活用している）と選択関係を持たない主題である *in questo campo* 「この土地で」が文頭に現れている。定動詞 *crescono* は三人称複数である主語 *verdure* 「野菜」に一致している。二文目は(1a)と同じで、ここでも *verrà venduto* が三人称単数男性形であり、*campo* が主語になっていることがわかる。

ここで、動詞 *crescere* の主語を *campo* と同じ男性単数の名詞 *riso* 「稲」にしてみると、次のようになる。

c. *In questo campo cresce riso di ottima qualità. Quindi verrà venduto ad un prezzo alto.*  
で この 土地 育つ:3SG 稲:M;SG の 最高の クオリティ だから  
売られる:3SG;M で ART 値段 高い

「この土地では良い稲が育つ。だから高い値段で売れるだろう。」

日本語と同様に、イタリア語でも「高値で売れる」ものは土地であるという読み方が普通である。稲が高値で売れると言いたい場合には、次のように二文目の主語を明示する、すなわち主題を変更する必要がある。

c' *In questo campo cresce riso di ottima qualità. Quindi il riso verrà venduto ad un prezzo alto.*  
で この 土地 育つ:3SG 稲:M;SG の 最高の クオリティ だから ART 稲:M;SG  
売られる:3SG;M で ART 値段 高い

「この土地では良い稲が育つ。だからその稲は高く売れるだろう。」

---

<sup>3</sup> 二つ目の文において主語が見た目上現れないのは、イタリア語がいわゆる *pro-drop* 言語であるためである。主語が *questo campo* であることは、文脈のほか、定動詞 *verrà* が三人称単数形であることおよび主語と性数一致する過去分詞 *venduto* が男性単数形であることからわかる。

(1c)は、文を超えて続いている主題（土地）が、統語的軸項として機能している例であると言えるだろう<sup>4</sup>。

(2) 私は頭が痛い。だから今日は休む。

【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外、統語的軸項としての機能】

a. Ho mal di testa. Per oggi mi riposo.

持つ:1SG 痛み の 頭 に 今日 休む:1SG

b. Mi fa male la testa. Per oggi mi riposo.

私に する 痛み ART 頭 に 今日 休む:1SG

前半に関しては、二通りの言い方が可能である。(2a)が主語の明示されていない SVO 構文であるのに対し、(2b)では主題である「私」が与格の代名詞 mi「私に」によって表され、文の主語は testa「頭」である。二重主語文についてはイタリア語には対応する表現は見当たらず、翻訳する場合には文ごとどのように表現するのかを考えることになるだろう。

また、後半に関しては、主題が前半部で主語であっても間接目的語であっても主語として現れている。

## 2. とりたて表現について

(3) あの人だけ、時間通りに来た。【限定】

a. Solo lui è arrivato in orario.

だけ 彼 到着した 時間通りに

副詞 solo「～だけ、～のみ」を用いて、明示的に限定を表すことができる。solo は同意語 soltanto 及び solamente と交替可能である：

b. Soltanto lui è arrivato in orario.

c. Solamente lui è arrivato in orario.

多少のニュアンスの違いはあれど、文の意味は大きく変わらないと言って良い<sup>5</sup>。Soltanto 及び solamente との交替は以下の(4-5)においても可能である。

また、unico「唯一の（もの、人）」を用いても同じような意味を表すことが可能であろう。

d. L'unica persona arrivata in tempo era lui.

唯一の 人物 到着した 時間通りに であった 彼

「時間通りに来た唯一の人物が彼であった。」

<sup>4</sup>ただし、(1c)などは無理やり作った作例であるという印象は否めない。最も自然な表現は、(1a)のように双方の文において主語と主題が一致するものであろう。

<sup>5</sup>Solo がもっともよく使われる形のようなのである。また、soltanto は他の2語に比べて限定の意が多少強調される、とされることもある。

(4) これはここでしか買えない。【限定・否定との共起】

a. Questo si può acquistare solo qui.  
これ できる 買う だけ ここ

(3)と同様、solo (ないし soltanto、solamente) を用いて明示される。ただし、日本語に現れるような否定はイタリア語では現れず、「これはここでだけ買える。」という文と同じ形で表すことになる。

もしくは、(4a)に比べると表現としては多少不自然になるが、否定を含んだ次の文も可能である。

b. Questo non si può acquistarlo in altri negozi.  
これ NEG できる これを買う で 他の 店  
「これは他の店では買えない。」

この場合、限定を表す語は表れない。

Unico を用いるのであれば、例えば、次のような文となるだろう。

c. Questo è l'unico negozio in cui si può acquistare questo.  
これ である 唯一の 店 において できる 買う これ  
「これがこれを買える唯一の店である。」

(5) その家にいたのは子供ばかりだった。【限定・多数】

a. In quella casa c'erano solo bambini.  
に その 家 いた:3PL だけ 子供:PL

ここでも、solo を用いるか、unico を用いて、

b. Gli unici ad essere in quella casa erano bambini.  
ART 唯一の者:PL いる に その 家 であった 子供:PL  
「その家にいる唯一の者たちは、子供であった。」

となるだろう。

(6) 次回こそ、失敗しないようにしよう。【限定・強調】

a. La prossima volta cercherò di non fallire.  
ART 次の 回 ようにする NEG 失敗する  
「次回は失敗しないようにしよう。」

b. LA PROSSIMA VOLTA, cercherò di non fallire.  
「(他の回ではなく) 次回は、失敗しないようにしよう。」

イタリア語では語彙によって明示されない。(6a)のように「次回は失敗しないようにしよう」と同じ形式を用いてコンテキストから読み取らせるか、(6b)のように強く読んだ上で残りの文と間を空けて区切ることで *la prossima volta* 「次回」を焦点化することになるだろう。またインフォーマントからは、すでに一度失敗しているか、次回が一定の結果を出すために重要な回であるという点から、次のように言うこともできると指摘された。

- c. *Proprio per questo la prossima volta cercherò di non fallire.*  
まさに ために これ ART 次の 回 ようにする NEG 失敗する  
「まさにこのために、次回は失敗しないようにしよう。」

(7) 疲れたね、お茶でも飲もう。【反限定・例示】

- a. *Che stanchezza! Andiamo a prendere un caffè.*  
なんという 疲れ 行こう に 飲む ART コーヒー  
「疲れた！ コーヒーを飲みに行こう。」

(6)同様、明示されないのが普通である。この例文で言えば、聞き手は話し手がコーヒーしか欲しくないというわけではなく、例としてコーヒーを出しているということを文脈から類推することになる。

(8) 水さえあれば、数日間は大丈夫だ。【極端・意外】

- a. *Anche solo bevendo acqua puoi sopravvivere per qualche giorno.*  
も だけ 飲む 水 できる 生き延びる の間 いくつかの 日  
「水を飲むだけでも数日間生き延びられる。」

- b. *Per sopravvivere qualche giorno basta anche solo l'acqua.*  
ために 生き延びる いくつかの 日 十分である も だけ 水  
「数日間生き延びるためには、水だけでも十分だ。」

イタリア語でとりわけ表現しづらい内容である。(3-5)にも現れた *solo* 「だけ」と *anche* 「～も」を組み合わせて、*anche solo* 「～だけでも」とすることになるだろう。

(9) 小さい子供まで、その仕事の手伝いをさせられた。【極端・意外】

- a. *Perfino i bambini sono stati obbligati a dare una mano per quel lavoro.*  
でさえも ART 子供 しなければいけなかった 手を貸す のために その 仕事

(6-8)と異なり、副詞 *perfino* 「でさえも」によって言語的に明示される。日本語とほぼ同じ意味を表現できると言ってよいだろう。

(10) 私はお金なんか欲しくない。【反極端・低評価】

a. A me non interessa il denaro.

に 私 NEG 興味を引く ART 金

「私はお金に興味がない。」

b. Non voglio dei soldi.

NEG 欲しい ART 金

「お金は欲しくない。」

(8)同様に、イタリア語では明示する形式のない表現である。インフォーマントからは、特に(10b)では部分冠詞 *dei* を用いることで一般的概念としての「お金」を表現し、たとえば「(感謝してもらえれば) お金はいらぬ」というような文脈を想定させることで、「なんか」に相当するようなお金に対する低評価をある程度示唆することができるのではないかと、という指摘もあった。

(11) 自分の部屋ぐらい、自分できれいにしなさい。【反極端・最低限】

a. Almeno la tua stanza puliscitela da solo.

少なくとも ART あなたの 部屋 あなたのためにそれを掃除する:IMP 自分で

(9)と同様、副詞 *almeno* 「少なくとも」を使って明示することができると言えるだろう。

(12) 私にもちょうだい。【類似・類似】

a. Dallo anche a me.

それをあげる:IMP も に 私

b. Lo voglio anch'io.

それ 欲しい 私も

「私もそれが欲しい。」

どちらの表現も可能であるが、いずれの場合にも(8)にも出てきた *anche* を用いて言うことができる。

(13) お父さんもう帰って来たね。お母さんは？【反類似・対比(疑問)】

a. Papà è già tornato. E mamma invece?

パパ AUX もう 帰った そして ママ 一方で

b. Papà è già tornato. E mamma?

c. Papà è già tornato. Mamma invece?

d. Papà è già tornato. Mamma?

(13c-d)は(13a-b)に比べると多少不自然ではあるが、四つ全てが可能な文である。まず、副詞 *invece* 「逆に、一方で」は対比を明示する典型的な手段であると言えるだろう。また、接続詞 *e* 「それで、そして」も、*invece* よりは弱いものの対比を表していると考えられる。これら二つの要素が、どちらも現れても現れなくても良い。

### 3. 不定表現について

(14) 誰か(が)電話してきたよ。【特定既知(specific known)】

- a. Ti ha chiamato qualcuno.  
君を 電話した 誰か

不定代名詞 *qualcuno* 「誰か」は不定形容詞 *qualche* 「なんらかの」および数詞 *uno* 「1」の複合である。さらに *Qualche* は疑問詞 *quale* 「どの」と関係代名詞 *che* の複合である。

なおこの文を含め、本項に挙げている例文の語順は特に言及がない限り全て無標である。

(15) 誰かに聞いてみよう。【非現実不特定(irrealis non-specific)】

- a. Chiediamo a qualcuno.  
聞こう に 誰か

(14)同様、*qualcuno* を用いる。

(16) 私のいない間に誰か来た？【疑問(question)】

- a. È venuto qualcuno quando non c'ero?  
来た 誰か 時に NEG いる:1SG

疑問文においても、同じく *qualcuno* を用いる。

(17) 誰か来たら、私に教えてください。【条件節内(conditional)】

- a. Casomai qualcuno venisse, mi faccia sapere.  
もし 誰か 来る 私に させる 知る

条件節の中でも、同様である。

(18) 今日は誰も来るとは思わない。/今日は誰も来ないと思う。【間接(全部)否定(indirect negation)】

- a. Non credo che venga qualcuno oggi. / Credo che oggi non venga nessuno.  
NEG 思う と 来る 誰か 今日 思う と 今日 NEG 来る 誰も

主節に否定辞 *non* が現れる場合には *qualcuno* が、従属節に現れる場合には不定代名詞 *nessuno* 「誰も」

が使われる。Nessuno はラテン語 *ne ip̄su(m)* 「もない」と *ūnu(m)* 「1」の複合から派生した語である<sup>6</sup>。また *nessuno* は動詞に対して後置される場合には否定辞 *non* を伴う<sup>7</sup>。

なお、*nessuno* が動詞に対して後置された(18a)二つ目の文は無標の語順であるが、これは動詞 *venire* (ここでは接続法現在三人称単数形 *venga* に活用している) 「来る」の性質によるものであろう<sup>8</sup>。実際、例えば動詞を *lavorare* 「働く」に変えて非能格の構文を作ると、次のように動詞に対して前置されたものが無標である。

- b. *Nessuno lavora.*  
誰も 働く  
「誰も働かない。」

(19) そこには今誰もいないよ。【直接(全部)否定(direct negation)】

- a. *Li non c'è nessuno ora.*  
そこ NEG いる 誰も 今

間接否定において従属節内に *non* が現れる場合と同様、*nessuno* が用いられる。

(20) (それは)誰でもできる。【自由選択(free-choice)】

- a. *Chiunque lo sa fare.*  
誰でも それを できる する

不定代名詞 *chiunque* 「誰でも」は疑問詞 *chi* 「誰」と譲歩のマーカである *-unque* 「～でも」の複合である。また、次の言い方も可能である。

- b. *Lo sanno fare tutti.*  
それを できる する みんな  
「それはみんなができる。」

なお(20b)および下に挙げる(21a-b)では主語が文末に来ているが、これは無標の語順ではない。イタリア語において新情報が文末に置かれるためである。対して(20a)で *Chiunque* が無標の位置である文頭に置かれるのは、文脈上、*chiunque* が焦点要素であると感じられにくいからであろう。

(21) そんなこと(は)、みんな知っているんじゃないか!? 【自由選択を示す「みんな」】

---

<sup>6</sup> 否定文における *nessuno* は同じく不定代名詞の *alcuno* によって交替できるとされるが、現在では非常に文語的な表現になる。

<sup>7</sup> 例外も散見されるものの、原則であると言ってよい。

<sup>8</sup> いわゆる非対格構文を要求する動詞であるためである。



- a. Ma non lo sanno tutti?  
しかし NEG それを 知っている みんな

(20b)と同様に、tutti が用いられるだろう。また、chiunque を用いた次の文も可能である。通常、「みんな」には tutti、「誰でも」には chiunque が対応しているとされるが、用法には（日本語と同様）大きな違いはないように思われる<sup>9</sup>。

- b. Ma lo sa chiunque!  
しかし それを 知っている 誰でも  
「誰でもそれを知っているよ！」

(22) そんなもの、誰が買うんだよ!?, 誰も買うわけじゃないか! 【反語】

- a. Chi mai lo comprerebbe!? Nessuno!  
誰 一体 それを 買う 誰も

二文目には Nessuno を単体で用いることができる。省略されている要素を明示するとすると、次のようになるだろう。ここでもやはり、焦点要素である nessuno は文末に現れる。

- b. Chi mai lo comprerebbe!? Non lo comprerebbe nessuno!  
誰 一体 それを 買う NEG それを 買う 誰も

#### 4. なわ張り理論について

(2) 私は頭が痛い。だから今日は休む。(再掲)

【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外、統語的軸項としての機能】

- a. Ho mal di testa. Per oggi mi riposo.  
持つ:PRS;IND 痛み の 頭 に 今日 休む:PRS;IND

- b. Mi fa male la testa. Per oggi mi riposo.  
私に する:PRS;IND 痛み ART 頭 に 今日 休む:PRS;IND

(2a-b)いずれの場合にも、直説法現在形が使われる。直接形であると言ってよいだろう。

(23) 君は英語がうまいね。【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

- a. Sei veramente bravo in inglese.  
である:PRS;IND 本当に 上手な において 英語

日本語の「ね形」にあたるニュアンスは、ここでは veramente 「本当に」によってある程度表されて

---

<sup>9</sup> Chiunqueの方がどちらかといえば文語的な表現である。

いると言えるだろう。いずれにせよ、動詞は(2a-b)と同様に直説法現在形で、直接形である。

(24) 君は退屈そうだね。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

- a. Sembri                    annoiato.  
見える:PRS;IND 退屈した

動詞 *sembrare* 「～に見える」（ここでは二人称単数形 *sembri* に活用している）が用いられる。間接形と言える。

(25) 明日も寒いらしいよ。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

- a. Dicono                    che anche domani farà freddo.  
言う:PRS;IND;3PL と も 明日 する 寒い
- b. Pare                      che anche domani farà freddo.  
見える:PRS;IND と も 明日 する 寒い

動詞 *dire* 「言う」の三人称単数形を用いた非人称的表現 *dicono che* 「～と言われている」、ないし動詞 *parere* 「～に見える」を用いて、間接形で表す。

#### 参考文献

- de Mauro, Tullio. 1999. *Grande dizionario italiano dell'uso*, UTET, Torino.  
Salvi, Giampaolo e Laura Vanelli. 2004. *Nuova Grammatica Italiana*, Il Mulino, Bologna.  
Serianni, Luca. 2006. *Grammatica Italiana*, UTET, Torino.

執筆者連絡先: [medusoide@gmail.com](mailto:medusoide@gmail.com)